

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3990200号
(P3990200)

(45) 発行日 平成19年10月10日(2007.10.10)

(24) 登録日 平成19年7月27日(2007.7.27)

(51) Int. Cl.

A 4 5 D 44/22 (2006.01)

F I

A 4 5 D 44/22

D

請求項の数 3 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2002-173589 (P2002-173589)
 (22) 出願日 平成14年6月14日(2002.6.14)
 (65) 公開番号 特開2004-16379 (P2004-16379A)
 (43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)
 審査請求日 平成17年3月18日(2005.3.18)

(73) 特許権者 502214804
 細木 伸昭
 大阪府大阪市淀川区塚本5丁目3-7 エ
 レガンスフジ203
 (74) 代理人 100065190
 弁理士 森脇 康博
 (74) 代理人 100117042
 弁理士 森脇 正志
 (72) 発明者 細木 伸昭
 大阪府大阪市淀川区塚本5丁目3-7 エ
 レガンスフジ203

審査官 櫻井 康平

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 フェースリフトアップ用器具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

顔の皺をのばすように該部に対応する部位の毛髪を束ねて引張るフェースリフトアップ用器具であって、毛髪の束を沿わせるように又は巻き付けるように保持する芯体(11)と、この芯体に対して芯体周面部に外嵌する着脱可能な割筒形の外装体(12)によりなるクリップ体(10)を主構成とし、クリップ体(10)の芯体後部に毛髪牽引用のフック掛け部(1)を有し、芯体(11)と外装体(12)とを毛髪を挟んで軸方向一体に固定しフック掛け部(1)にリフトバンド(20)を係着することにより毛髪を牽引してなることを特徴とするフェースリフトアップ用器具。

【請求項2】

顔の皺をのばすように該部に対応する部位の毛髪を束ねて引張るフェースリフトアップ用器具であって、毛髪の束を沿わせるように又は巻き付けるように保持する芯体(11)と、この芯体に対して芯体周面部に外嵌する着脱可能な割筒形の外装体(12)によりなるクリップ体(10)を主構成とし、クリップ体(10)の芯体(11)の外周面に1又は複数の凹凸環状部(2.3)を、対応する外装体(12)の内周面に芯体の凹凸環状部(4.5)と咬合する凹凸環状部(4.5)を形成し、芯体と外装体の凹凸環状部に毛髪を咬み込ませて軸方向一体に固定しフック掛け部(1)にリフトバンド(20)を係着することにより毛髪を牽引してなるフェースリフトアップ用器具。

【請求項3】

クリップ体(10)の外装体(12)に装飾を施してなる請求項1又は2記載のフェース

10

20

リフトアップ用器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、顔の皺や目尻の皺をのばすのに使用する飾り具を兼ねたフェースリフトアップ用器具に関する。

【0002】

【従来の技術】

額や目尻の皺をのばす美顔術の一手段として手術による方法が知られている。このような手術は整形外科医等によってメスを入れて皺の垂みをとるものである。

10

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、手術によるものは危険を伴い、而も高額のコストを要することは避け得ないという問題がある。

【0004】

従来、頭髮の一部を束ねて牽引することでフェースリフトアップする方法は、例えばメークアップの一手法として一般に知られている。このような従来のフェースリフトアップの方法は髪の毛を束ねて束ねた部分にひもを巻き付けて縛り、その縛った部分をゴムバンド等で牽引するものである。しかし、この方法は髪の毛の結束部がづれ動いて緩んだり外れる心配があり、フェースリフトアップを効果的に行えないとか、露出部分が醜いために外観上体裁が悪く、セットしたまま外出し難いという問題があり、且つその上、髪の毛の束が少ないと、束ね難い上に強く緊縛できないためフェースリフトアップが実施できなかった。

20

【0005】

本発明の目的は、メスを入れて皺の垂みをとるような整形手術を一切しないで、恰も頭髮のセットをする程度の気楽さでフェースリフトアップを簡単、迅速に而も安全に行うことができ、且つアクセサリを装着したように使用することを可能としたフェースリフトアップ用器具を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

30

上記目的を達成するための本発明の技術手段は、顔の皺をのばすように該部に対応する部位の毛髪を束ねて引張るフェースリフトアップ用器具であって、毛髪の束を沿わせるように又は巻き付けるように保持する芯体11と、この芯体に対して芯体周面部に外嵌する着脱可能な割筒形の外装体12によりなるクリップ体10を主構成とし、クリップ体10の芯体後部に毛髪牽引用のフック掛け部1を有し、芯体11と外装体12とを毛髪を挟んで軸方向一体に固定しフック掛け部1にリフトバンド20に係着することにより毛髪を牽引してなるものである。

【0007】

上記構成のフェースリフトアップ用器具は、2つのクリップ体を左右一対にして使用するとともに、両クリップ体のフック部に牽引バンド等を取付けることで、毛髪の束を左右両側から後頭部の方向へ適正な牽引力でリフトアップすることができる。このリフトアップにより例えば目尻の皺の垂みが引張られてのびるため、セットしている間皺のない美顔を保つことが可能となる。

40

【0008】

また、本発明の第2の技術手段は、顔の皺をのばすように該部に対応する部位の毛髪を束ねて引張るフェースリフトアップ用器具であって、毛髪の束を沿わせるように又は巻き付けるように保持する芯体11と、この芯体に対して芯体周面部に外嵌する着脱可能な割筒形の外装体12によりなるクリップ体10を主構成とし、クリップ体10の芯体11の外周面に1又は複数の凹凸環状部2、3を、対応する外装体12の内周面に芯体の凹凸環状部4、5と咬合する凹凸環状部4、5を形成し、芯体と外装体の凹凸環状部に毛髪を咬み

50

込ませて軸方向一体に固定しフック掛け部 1 にリフトバンド 2 0 を係着することにより毛髪を牽引することである。

【 0 0 0 9 】

斯る構成とすることにより、芯体に毛髪を沿わせ、又は巻き付けるようにしてその上から外装体を外嵌させると、内外両面の凹凸環状部が毛髪を挟んで咬込むため軸方向に対しては完全に一体化してルーズに遊動したり抜脱することが一切なく、従って強力に毛髪の牽引を効率よく行うことができる。

【 0 0 1 0 】

さらに、本発明においては、クリップ体 1 0 の外装体 1 2 に装飾を施してなることを特徴とするものである。

10

【 0 0 1 1 】

本発明は上記構成とすることにより、フェースリフトアップ用器具を装着した状態では恰もイヤリングや髪飾りをしたようにお洒落感覚で使用可能であり、その結果、セット中でも自由に楽しく外出をすることができる。

【 0 0 1 2 】

【 発明の実施の形態 】

以下、添付図面を参照して本発明の好ましい実施例を説明する。

【 0 0 1 3 】

【 実施例 】

図 1 乃至図 4 は一例として本発明のフェースリフトアップ器具を示したものであり、図 1 は実際に使用した状態の図であり、図 2 は器具の斜視図、図 3 及び図 4 はクリップ体の詳細図を示している。

20

【 0 0 1 4 】

図 2 中 (イ) に示すように本発明のフェースリフトアップ用器具は、2つのクリップ体 1 0 . 1 0 を左右一対にしたものをリフトバンド 2 0 で連結したものである。リフトバンド 2 0 はゴムバンドのような伸縮性を有するもの、又は非伸縮性のひも体が用いられ長さ調節及び中間を止具 2 1 により着脱可能に形成する。止具 2 1 は面チャック又は雌雄一対の係止体、バックル等であってもよい。

【 0 0 1 5 】

クリップ体 1 0 は芯体 1 1 とその芯体外周部に外嵌する外装体 1 2 とよりなる。芯体 1 1 は短軸棒状のものに複数条の凹凸環状部 4 . 5 を有し、後端部にリフトバンド 2 0 へのフック掛け部 1 を具有する。このような芯体 1 1 は断面円形が好ましいが多角形であっても差支えない。外装体 1 2 は全長に縦割部 6 を有する弾性体よりなり、内周面に芯体 1 1 の凹凸環状部に対応した凹凸環状部 4 . 5 を具有したものである。このような外装体 1 2 は、縦割部 6 より全体が拡径するように押し広げてその間から芯体 1 1 を強制圧入して芯体 1 1 に外装体 1 2 を弾圧的に外嵌する。このようにすると、内外両面の凹凸状部 2 . 3 と 4 . 5 が互いに係合して軸方向に対して一体に結合される。外すときは、縦割部 6 を押広げて外嵌を緩めれば容易に芯体 1 1 より外装体 1 2 を取り外すことができる。

30

【 0 0 1 6 】

また、このようなクリップ体 1 0 、特に外装体 1 2 は各種色彩に着色し又独自のデザインを施し、例えば彫物、或いは図柄、絵、文字等を描出して頭飾品のように意匠的效果を高めるように工夫する。

40

【 0 0 1 7 】

リフトアップしようとする部位 (例えば図 1 に示すように耳の上部) の毛髪を束ねて芯体 1 1 に沿わせ、又は一部を巻き付けるようにしてその上から外装体 1 2 を外嵌させると、毛髪は内外両面の凹凸環状部 2 . 3 と 4 . 5 に咬込んだように屈曲して摺持される為クリップ体 1 0 は毛髪の束を掴んだように固定される。このクリップ体を左右一対のものを夫々のフック掛け部 1 にリフトバンド 2 0 の端部の係止部 2 2 を係止し、リフトバンド 2 0 は後頭部で互いに面チャック、その他の止具 2 1 で結合し、リフトバンド 2 0 の全体を頭髪で覆いかくすようにする。このようにすると、前方又は側方よりクリップ体 1 0 のみが

50

目立つがりフトバンド２０は全く見えないので、恰も頭部の左右両側部に短軸棒状のアクセサリーが装着された如くになってフェースリフトアップを人目につかない状態で実施することができる。

【００１８】

クリップ体１０、１０により左右の毛髪の束が後方へ牽引されて所謂フェースリフトアップされると、目尻等の皮膚が後方へ牽引されるため、皺がのばされることは言うまでもない。また、目やまゆげを吊り上げたり、逆に下げたりしてメーキャップを容易に行うこともできる。

【００１９】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、クリップの芯体に髪の毛の束を当てがいその上から外装体を弾圧的に外嵌することによりクリップ体で髪の毛の束を咬込んでしっかり固定し、固定した部位をリフトバンドに引掛けて強力に牽引するためリフトアップを効果的に行うことができると共に、リフトバンドやクリップへの結合部等を髪の毛でかくすようにできるため、セット時でも余り目立たないので体裁がよく、誰れでも独りで簡単に使用することができる。

【００２０】

また、本発明によればクリップ体の外装体を形態及び色彩豊かにデザインし、図柄、絵等を施すことにより、お洒落感覚で頭飾りを装着した如くを使用することができ室内はもとより外出時にも気楽に使用できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明フェースリフトアップ器具の一実施例を示し、（イ）はクリップをセットした状態の外観図、（ロ）は本器具全体の斜視図である。

【図２】クリップ体の芯体と外装体の斜視図。

【図３】クリップ体の拡大した図を示し、（イ）はその側面図、（ロ）はＡ－Ａ線の断面図、（ハ）はＢ－Ｂ線の断面図である。

【図４】クリップ体の他の実施例を示し、（イ）は縦断側面図、（ロ）はＣ－Ｃ線の断面図である。

【符号の説明】

- １ フック掛け部
- ２、３、４、５ 凹凸環状部
- １０ クリップ体
- １１ 芯体
- １２ 外装体
- ２０ リフトバンド

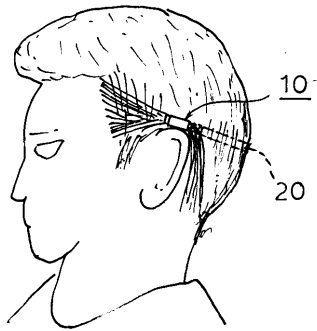
10

20

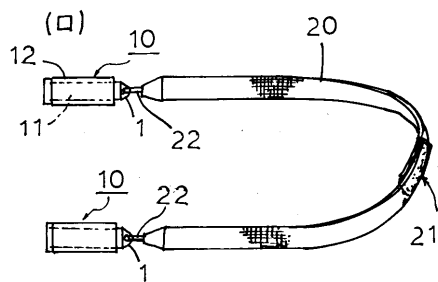
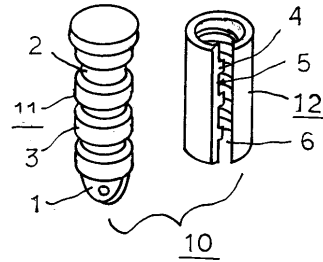
30

【図 1】

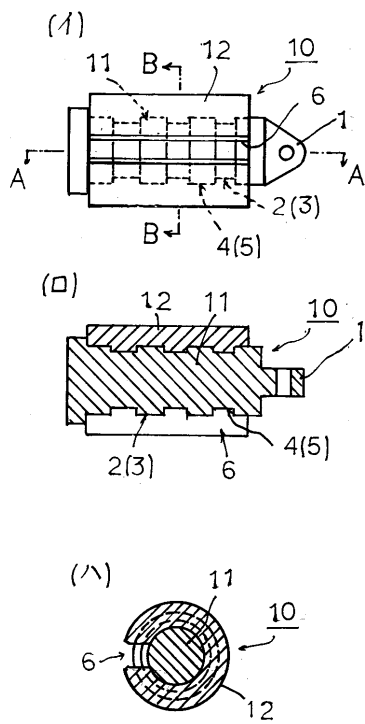
(1)



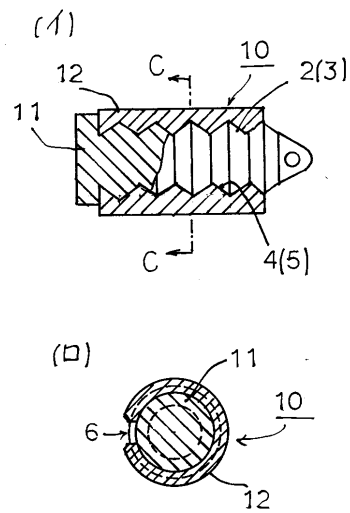
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平02-122625(JP,U)
実開昭55-001415(JP,U)
実開昭52-064652(JP,U)
登録実用新案第3083236(JP,U)
特開平08-182530(JP,A)
実開昭63-160704(JP,U)
実開昭62-117901(JP,U)
特開平08-024033(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A45D 44/22